

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	臨床心理学			担当者	古村 健				
学 年	2	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	からだ・こころの問題を抱えた”人”をどのように理解し、どのように関わるのが援助的となるのか、臨床心理学的視点から学ぶ。また臨床心理学的知識と技法を、リハビリテーションの仕事に、どのように生かすことができるのかを学ぶ。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 臨床心理学とは	こころのなりたちとしての生物-心理-社会モデルを理解する 演習Ⅰ：感情発見のロールプレイ						古村健	
	2 臨床心理学の活用	エビデンスに基づく実践を理解する 演習Ⅱ：コミュニケーションにおける態度の影響力						古村健	
	3 心理学的援助の基本	心理学的援助として探索・理解・行動の流れを理解する 演習Ⅲ：リハビリテーション場面における患者の心理を考える						古村健	
	4 心理検査	心理検査として、人格・知能・認知機能検査を理解する						古村健	
	5 心理療法	心理療法の3大アプローチを理解する						古村健	
	6 心理的障害1	ライフサイクルからみた心の問題を理解する 演習Ⅳ：問いかけの仕方						古村健	
	7 心理的障害2	主な心理的障害に対する心理的支援を理解する 演習Ⅴ：アサーション						古村健	
	8 心理的障害3	神経発達障害に対する心理的支援を理解する 演習Ⅵ：セルフケアのためのプランづくり						古村健	
授業形態	教科書を使った講義、参考書を使った演習、小レポートの作成								
教科書	完全カラー図解 よくわかる臨床心理学(ナツメ社)								
参考書	理学療法士・作業療法士のための治療心理学－患者によりそう行動アプローチ－(創元社)								
評価方法	毎回の小レポート (50%)、 試験 (50%)								
授業時間外の学習	小レポートは、翌回の授業時間開始までに提出すること。								
履修上の留意点	4回以上欠席した場合は、単位を認定することができない。								

# 授 業 要 項

令和6年度

授業科目	内科学				担当講師	尾崎 行男、小川 賢二、山田 憲隆 高橋 宏尚、小林 慶子			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30
教育目標 〔一般目標〕	内科学領域でみられる疾患・障害の基礎知識について、病態・評価・治療を中心に学ぶ。								
授業計画	授業計画(テーマ)				授業内容〔行動目標〕				担当者
	1 循環器総論(心臓の構造と機能) 循環器疾患(冠動脈疾患・不整脈・ 心臓弁膜症・高血圧・心不全)				循環器の解剖と生理について理解し、主な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。				尾崎行男
	2 呼吸器総論				呼吸器の機能と構造を理解し、呼吸器疾患の症状と所見、呼吸機能を測定する検査法などについて理解する。				山田憲隆
	3 呼吸器疾患 感染症				感染性呼吸器疾患の病態、診断、治療の基礎知識について理解する。				小川賢二
	4 呼吸器疾患 アレルギー				アレルギー性呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療の基礎知識について理解する。				
	5 呼吸器疾患 慢性呼吸器疾患				慢性呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療の基礎知識について理解する。				
	6 呼吸器疾患 腫瘍				腫瘍性呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療の基礎知識について理解する。				
	7 消化器疾患				消化器疾患の基礎知識について理解する。				高橋宏尚
	8 肝臓・胆嚢・膵臓疾患				肝臓・胆嚢・膵臓疾患の基礎知識について理解する。				小林慶子
授業形態	講義								
教科書	寺野 彰 総編集:シンプル内科学 改訂第2版. 南江堂								
参考書									
評価方法	筆記試験(尾崎、小川、高橋、小林) 授業時間数に応じて配分								
授業時間外の学習	授業前後の予習、復習には1時間程度かけ、病態の理解を深めること								
履修上の留意点	講義日程は時間割表にて確認すること								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	整形外科学			担当者	佐藤 智太郎、斉藤 究、下野 圭子				
学 年	2	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	整形外科領域でみられる疾患・障害の基礎知識について、病態・評価・治療を中心に学ぶ。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 【総論】整形外科について	整形外科診断に関する一般的な知識を理解する。						下野圭子	
	2 【総論】整形外科の診断学	整形外科領域の診療への係わりおよび検査法についてのおおよそを理解する。							
	3 【総論】整形外科的治療法	整形外科治療に関する一般的な保存療法および手術療法について理解する。							
	4 【各論】軟部組織損傷	軟部組織損傷に対する整形外科領域の診療への係わりを理解する。						佐藤智太郎	
	5 【各論】骨・関節の損傷	骨・関節損傷に対する整形外科領域の診療への係わりを理解する。							
	6 【各論】肩関節および上腕	リハビリテーションに必要な肩関節および上腕の機能解剖および疾患を理解する。						斉藤究	
	7 【各論】肘関節および前腕	リハビリテーションに必要な肘関節および前腕の機能解剖および疾患を理解する。						佐藤智太郎	
	8 【各論】手関節と手指	リハビリテーションに必要な手関節と手指の機能解剖及び疾患を理解する。							
	9 【各論】股関節および大腿	リハビリテーションに必要な股関節および大腿の機能解剖および疾患を理解する。							
	10 【各論】膝関節および下腿	リハビリテーションに必要な膝関節および下腿の機能解剖および疾患を理解する。							
	11 【各論】足関節および足部	リハビリテーションに必要な足関節および足部の機能解剖および疾患を理解する。							
	12 【各論】骨盤	リハビリテーションに必要な骨盤の機能解剖および疾患を理解する。						斉藤究	
	13 【全身性の疾患】リウマチとその類似疾患	リウマチとその類似疾患の基礎知識について理解する。							
	14 【全身性の疾患】慢性疼痛疾患	慢性疼痛疾患の基礎知識について理解する。							
	15 【全身性の疾患】慢性関節疾患	慢性関節疾患の基礎知識について理解する。						下野圭子	
	16 【全身性の疾患】代謝・内分泌疾患	代謝・内分泌疾患のうち、骨粗鬆症の基礎知識について理解する。							
	17 【全身性の疾患】骨・軟部腫瘍	骨・軟部腫瘍の基礎知識について理解する。							
18 【全身性の疾患】骨系統疾患	骨系統疾患の基礎知識について理解する。								
授業形態	講義								
教科書	高橋邦泰, 芳賀信彦 編: 整形外科学テキスト改訂第5版. 南江堂								
参考書									
評価方法	筆記試験(佐藤、斉藤、下野) 授業時間数に応じて配分								
授業時間外の学習	授業前には解剖学, 運動学の復習をし, 授業後には復習を1時間程行って知識の定着をはかること								
履修上の留意点	前期は総論 I 整形外科学の基礎知識、各論 I 部位別の外傷と疾患の授業を行う。								

# 授業要項

令和6年度

授業科目	神経学				担当講師	奥田 聡、饗場 郁子、橋本 里奈、片山 泰司、横川 ゆき、見城 昌邦、村尾 厚徳、小森祥太			
学年	2年	学期	前期	学科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 〔一般目標〕	神経症候学ならびに神経内科及び脳神経外科領域でみられる疾患・障害の基礎知識について、病態・評価・治療を中心に学ぶ。								
授業計画	授業計画(テーマ)			授業内容〔行動目標〕				担当者	
	1 脳神経内科学とは(P2～) 意識障害・めまい・失神(P16～) 脳神経障害(P22～) 姿勢反射障害と姿勢異常(P49～) 感覚障害・疼痛(P63～) 運動麻痺(P33～) 運動失調(P36～)			各神経症候・疾患について、その概念を理解し、病態生理・発現機序、主な原因や疾患、分類、評価法などについて理解する。				奥田聡	
	2 錐体外路症候(P43～)			錐体外路症候について、概念、病態生理を理解し、その症候について理解する。				饗場郁子	
	3 構音障害・嚥下障害・球麻痺症状(P28～) 睡眠障害(P70～) 障害評価(P124～) 脳血管障害総論(P130～)			各神経症候について、その概念、種類および原因、評価などについて理解する。 脳血管障害について、その種類と分類について学び、虚血性脳血管疾患を中心にその症候や治療について理解する。				片山泰司	
	4 筋萎縮(P52～) 歩行障害(P58～)			筋萎縮と歩行障害について、その概念や症候、種類や検査所見などを理解する。				橋本里奈	
	5 自律神経症候(P76～) 認知症(P142～)			自律神経症候について、その概念や主な症候を理解する。 認知症について、主要な疾患について学び、その基礎知識を理解する。				見城昌邦	
	6 精神症状(P83～) 高次脳機能障害(P88～)			精神症状と高次脳機能障害について、その概念を学び、症状・分類、検査などについて理解する。				横川ゆき	
	7 感覚障害・疼痛(P63～) てんかん(P188～)			感覚障害候・疼痛、てんかんについて、その概念学び、病態生理、分類・種類などについて理解する。				村尾厚徳	
	8 ミオパチー(P234～)			ミオパチーについて、その概念や主な症候を理解する。				小森祥太	
授業形態	講義								
教科書	河村満:メディカルスタッフのための神経内科学, 医歯薬出版								
参考書									
評価方法	筆記試験(奥田、饗場、片山、横川、見城、橋本、村尾、小森) 授業時間数に応じて配分								
授業時間外の学習	授業前後の予習、復習には1時間程度かけ、病態の理解を深めること								
履修上の留意点	講義日程は時間割表にて確認すること								

# 授 業 要 項

令和6年度

授業科目	精神医学/精神医学 I				担当講師	千田 真典			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 〔一般目標〕	国家試験合格に必要な精神医学の基本的知識を身につけるとともに、精神疾患の病態について理解を深める。							
授業計画	授業計画(テーマ)		授業内容〔行動目標〕				担当者	
	1	精神医学総論	精神医学に関する歴史、関連法規、精神科の診断や治療について、理解する。				千田	
	2	精神症候学	症候のとらえ方や精神症状の定義について理解する。				千田	
	3	統合失調症	典型的な統合失調症の症状・疫学・転帰・治療・リハビリテーションの概略について理解する。				千田	
	4	気分障害	疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。				千田	
	5	神経症性疾患	旧来の概念でいう「神経症性疾患」の概略を理解し、現代的な病態理解を含めて学ぶ。				千田	
	6	器質性症状性精神障害 物質関連性精神障害	旧来の概念でいう「外因性精神障害」について、主要な疾患や状態像を理解する。				千田	
	7	人格障害、摂食障害、睡眠障害	疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。				千田	
	8	児童思春期の精神疾患、老年期の精神疾患	それぞれの年代で好発する精神疾患の概要を理解する。				千田	
授業形態	形態は講義形式と関連する映画DVDの放映。学習資源としては、教科書、パワーポイント、DVDを使用する。							
教科書	標準理学療法学・作業療法学—専門基礎分野 精神医学 第4版増補版 医学書院							
参考書	精神科(国試マニュアル100%シリーズ)第6版 医学教育出版社 メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ『精神医学』 理工図書							
評価方法	全授業終了後の論述試験(期末試験)にて評価する。							
授業時間外の学習	各自、受講前に教科書(可能であれば参考書も)の当該項目におおまかに目を通しておくことが望ましい。							
履修上の留意点	特になし。							

# 授業要項

令和6年度

科目名	公衆衛生学				担当者	三谷一憲			
学年	2年生	学期	前期	学科	共通	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	公衆衛生は、組織的な地域社会の努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延伸し、身体的および精神的健康と能率の増進を図る科学である。公衆衛生学は、この知識や体系を学ぶ学問である。ゆえに、非常に広範囲に及ぶ知識を体得する必要があることを自覚し、授業に臨んでほしい。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
	1 オリエンテーション、 「健康」と「公衆衛生」の定義	健康、公衆衛生とは？ 公衆衛生活動、保健医療、 社会福祉領域への従事者の生命倫理。					三谷一憲		
	2 保健統計、疫学	健康指標、人口統計を理解する。 疫学とは何かについて学ぶ。					三谷一憲		
	3 疾病予防、健康管理	予防医学的な一次予防、二次予防、三次予防の 内容を学ぶ。健康管理、健康増進について、特に 身近な 喫煙について学ぶ。					三谷一憲		
	4 感染症の予防と対策、 生活習慣病と「がん」予防	感染症の成り立ち、予防および最近の感染症に ついて学ぶ。生活習慣病および「がん」の現状と その対策について学ぶ。					三谷一憲		
	5 人間と環境(生態系)、地球環境問題	生態系の成り立ち、環境汚染と地球環境問題に ついて学ぶ。					三谷一憲		
	6 物理的、化学的環境要因、 空気、水等の衛生	環境の物理的、化学的要因と、その健康影響に ついて学ぶ。空気、水等の衛生と、その健康影 響。					三谷一憲		
	7 地域保健行政、母子保健、学校保 健、産業保健	地域保健行政の内容、母子保健のあらし、 学校保健、産業保健、特に職業病について学 ぶ。					三谷一憲		
	8 高齢者の保健、医療、介護制度、 国際保健医療	高齢者の保健、医療、介護制度、国際保健の 内容について学ぶ。「公衆衛生学」のまとめを行 う。					三谷一憲		
授業形態	講義(教科書、配布プリント)								
教科書	「シンプル 衛生公衆衛生学」2023 南江堂								
参考書	新版「生活と環境」第3版 訂正;岡部昭二、日比野雅俊、三谷一憲、土屋博信、酒井 潔 共著 三共出版 (2014)								
評価方法	学期末試験(記述式)90%と授業態度(出欠状況等)10%の総合評価								
授業時間外の 学習	「公衆衛生学」は日常生活の学問であるので、毎日の「新聞」「テレビ」「その他スマホ等」によるニュース、情 報等には、日ごろから注意を払っておくこと。								
履修上の 留意点	教科書および配布資料の予習、復習に努め、解らないことは、インターネット等で、その日のうちに調べてお くこと。								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	健康管理学				担当者	小野田 慎平、中川 誠 中村 敦子、堤 恵志郎			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	疾病を予防し、心身の健康を図るために必要な知識や体系を学ぶ。 産業保健に対する理学療法および健康維持・増進における理学療法士の関わりについて学ぶ。 栄養学について学び、リハビリテーションと栄養学の関連性について理解し、栄養管理の重要性を知る。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	栄養管理 ・栄養の基礎(栄養学) 栄養補給、エネルギー、栄養素 ・栄養療法(リハビリテーションとの 1 関連) 栄養管理、メタボリックシンド ローム ・栄養管理の実際 NSTの実際	栄養管理の実際について学び、リハビリテーシ ョン部門とのつながりやリハビリテーションにおけ る栄養管理の必要性が理解できる。						小野田慎平	
	2 栄養と運動療法①	栄養と運動療法の関係について理解し、説明でき る。						中川誠	
	3 栄養と運動療法②	エネルギー代謝・産生について理解し、説明でき る。 運動器障害と栄養の関係について理解できる。						堤恵志郎	
	4 健康の概念と健康づくり -ヘルスプロモーション-	健康の概念を理解し、予防・健康増進分野での 理学療法士の役割を理解する。						中村敦子	
	5 産業理学療法	産業保健領域で用いられる人間工学的評価や、 行動変容理論の概念および、筋骨格系障害予 防の重要性が理解できる。							
	6 メンタルヘルス	メンタルヘルス問題の予防の重要性について理 解し、予防のための運動療法の重要性について 知る。							
授業形態	講義、実技実習								
教科書	なし								
参考書	日本理学療法士協会 編:理学療法原論 樋口由美・他 編:予防と産業の理学療法,南江堂								
評価方法	レポート 授業時間数に応じ配分								
授業時間外の 学習	1~2時間の事前事後学習を要す								
履修上の 留意点									

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	医療安全管理学				担当者	深谷 真知子、志波 幸子、土岐 久美子 中村 敦子、米田愛、川瀬翔太			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	理学療法マネジメントに必要なリスクマネジメントを学ぶ(医療事故とヒューマンエラー、感染対策と予防等)。救命救急医学の基礎である心肺蘇生法及びその他の応急手当の手技を習得する。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 リハビリテーション科におけるリスクマネジメントの実際	リハビリテーション科におけるリスクおよびリスクマネジメントについて理解し、説明できる						深谷真知子	
	2 リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン	リハビリテーションの中止基準について理解し、安全なリハビリテーションの実施について説明できる。						米田愛	
	3 院内感染・感染対策の実際	院内感染・感染対策について理解し、説明・実践できる						志波幸子	
	医療安全管理 ・医療安全と医療事故の実際、 ヒューマンエラー ・リスクマネジメント (制度・マニュアル・報告・対応)	医療安全管理の実際について学び、リハビリテーション部門とのつながりやリハビリテーションにおける医療安全管理の必要性が理解できる。						土岐久美子	
	5 応急手当の必要性	応急手当の必要性について理解し、説明することができる							
	6 心肺蘇生法実技	心肺蘇生法実技(反応、呼吸の確認、胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの使用)を実施することができる						中村敦子 川瀬翔太	
	7 その他の応急手当	異物除去法(催咳・腹部突き上げ法・背部叩打法)止血法(直接圧迫止血法)について理解し、実施することができる							
	8 搬送法	搬送法について理解し、実施することができる。						米田愛	
	9 手指衛生の実際	手指衛生の方法について理解し、実践できる。						川瀬翔太	
授業形態	講義、実技実習								
教科書	なし								
参考書	公益社団法人日本リハビリテーション医学会:リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン 第2版, 診断と治療社 亀田メディカルセンター編:リハビリテーションリスク管理ハンドブック, メジカルビュー 細田多穂 監:理学療法概論テキスト, 南江堂 金谷さとみ・他 編:リハビリテーション管理・運営 実践ガイドブック, メジカルビュー								
評価方法	レポート、実習状況 (授業時間数に応じ配分)								
授業時間外の学習	1~2時間の事前事後学習を要す								
履修上の留意点	実技実習を行う際には動きやすい服装で臨むこと								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	基礎理学療法学実習				担当者	蕨野 博明			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	基礎理学療法学で学んだ基礎知識を再学習し、実技演習を通して理解を深めることができる。運動療法の基本的な方法・手技に触れる。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 運動療法	1年次に学んだ運動療法の概念について振り返り、その目的・種類を説明できる。また、臨床実習（Ⅰ）で実際に見学した運動療法を挙げる事ができる。						蕨野博明	
	2 バイタルサイン	バイタルサインについて説明でき、その主要な測定を実施する。理学療法を実施するにあたり、リスク管理に必要な不可欠な情報として理解できる。						蕨野博明	
	3 関節可動域運動・伸張運動	関節可動域運動・伸張運動の目的・種類・方法・適応を理解し、注意点に配慮しながら実施できる。また、そのために必要な知識を再確認する。						蕨野博明	
	4 筋力増強運動	筋力増強運動の目的・種類・方法・適応を理解し、注意点に配慮しながら実施できる。また、そのために必要な知識を再確認する。						蕨野博明	
	5 運動と呼吸・循環・代謝	運動と呼吸・循環・代謝の関係を理解し、運動における身体の変化について説明できる。また、全身持久力の評価とエネルギー代謝について実習を通して理解を深める。						蕨野博明	
	6 姿勢と協調性、運動学習	姿勢と重心、運動制御、協調性について実習を通して理解を深める。運動療法を実施していく中で運動学習の理論に基づいた実際を説明できる。						蕨野博明	
	課題発表 7 (治療体操と基礎疾患への運動効果)	発表および実習を通して、疾患に基づいた治療体操を学び、体験する。また、基礎疾患(高血圧症・脂質異常症・糖尿病・腎臓病)の病態に触れ、その運動療法について学ぶ。						蕨野博明	
授業形態	講義、実技実習、課題発表、小テスト								
教科書	特になし								
参考書	標準理学療法学 運動療法学 総論 第4版 医学書院 1年次基礎理学療法学授業資料								
評価方法	実技試験(70%)、小テスト(10%)、課題発表(20%)								
授業時間外の学習	1年次に履修した基礎理学療法学を復習しておくこと。 課題発表は時間を厳守し、他者にわかりやすく伝えられるように準備をする。								
履修上の留意点	実技演習では、実際に即した状況を想定して行えるよう、被験者を学生と思わず患者と思って実施し、オリエンテーションやコミュニケーションのとり方にも注意しながら行う。 実技演習時では動きやすい服装で臨み、講義においては参考書を持参することが望ましい。								
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり								

# 授業要項

令和6年度

科目名	運動学				担当者	川瀬 翔太			
学年	2年	学期	前期	学科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	人が運動を行う場合の基本となる関節運動を中心にその構造と機能を理解する。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]			担当者	
	1 総論				「運動学とは」および捉え方、機能解剖の整理の仕方、学習の進め方などを説明する。			川瀬 翔太	
	2 肩関節				肩複合体の解剖学的特徴と機能が説明できる。肩複合体の筋の作用と複合運動を説明できる。肩関節の靭帯の機能について説明できる。			川瀬 翔太	
	3 肘関節				肘関節の特徴と機能が説明できる。肘関節の構成体について説明できる。肘関節および前腕の関節運動について説明できる。			川瀬 翔太	
	4 手関節				“手”の構成と機能について説明できる。手関節・手指の特徴を理解し、その構造と関節運動および筋の作用について説明できる。			川瀬 翔太	
	5 股関節				股関節の特徴と機能が説明できる。股関節の構成体について説明できる。股関節に関する各種計測について説明できる。荷重時に於ける股関節のメカニクスについて説明できる。股関節の異常が原因となる歩行について説明できる。			川瀬 翔太	
	6 膝関節				膝関節の特徴と機能が説明できる。膝関節の靭帯、関節半月の機能が説明できる。膝関節の運動と靭帯の作用を関連付けて説明できる。膝関節の関節包内運動が説明できる。膝関節の筋の作用を説明できる。			川瀬 翔太	
	7 足関節				下腿及び足根および足部の関節の構造を説明できる。足関節および足部の運動軸に対する骨運動と筋の作用が説明できる。足のアーチについて説明できる。			川瀬 翔太	
	8 体幹				脊柱、椎間関節、椎間板の特徴と機能が説明できる。脊柱・体幹の筋の機能について説明できる。呼吸運動について説明できる。			川瀬 翔太	
	9 歩行				姿勢と重心、歩行の指標、重心の移動、各関節の変化、筋の活動、床反力、異常歩行を説明することができる。			川瀬 翔太	
授業形態	講義								
教科書	Donald A Neumann:筋骨格系のキネシオロジー, 医歯薬出版株式会社								
参考書	松野丈夫・中村利彦編:標準整形外科学, 医学書院 中村隆一:基礎運動学, 医歯薬出版株式会社 図解関節・運動器の機能解剖, 運動器の機能解剖, カパンディ関節の生理学 日本人体解剖学, 分担解剖学, Essential解剖学								
評価方法	筆記試験(100%)								
授業時間外の学習	事前課題あり。特に骨・関節の名称および滑膜性関節の基本構造と分類、筋の起始停止を復習しておくこと。								
履修上の留意点	解剖学・生理学・物理学・基礎運動学が基礎となっているため、それらに関連づけ、スケルトンなどを利用して3次元でイメージしながら理解するとよい。 各関節を解剖学的特徴、関節の安定性と機能解剖、運動の3つのカテゴリーに分け整理するとよい。								
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	理学療法評価学 I				担当者	米田 愛 堤 恵志郎			
学 年	2	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	患者の全体像の把握・問題点の抽出および治療プログラム立案の基礎となる理学療法評価の意義・方法を学び、実施できるようにする。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 評価とは？(講義)	評価の意義・目的について説明できる。						堤	
	2 関節可動域テスト(講義・実技)	上肢の関節可動域テストの意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田・堤	
	3 関節可動域テスト(講義・実技)	下肢の関節可動域テストの意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田・堤	
	4 関節可動域テスト(講義・実技) 徒手筋力テスト(講義・実技)	頸部・体幹の関節可動域テストの意義・方法を説明できる。 上肢の徒手筋力テストの意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田・堤	
	5 徒手筋力テスト(講義・実技)	下肢の徒手筋力テストの意義・方法を説明できる オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田・堤	
	6 徒手筋力テスト(講義・実技)	頸部・体幹の筋力テストの意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田・堤	
	7 形態測定・整形外科学検査(講義・実技)	形態測定の意義・方法を説明できる。 整形外科学検査の意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田	
	8 感覚・反射検査(講義・実技)	感覚・反射検査の意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田	
	9 筋トーン・協調性・ADL検査 (講義・実技)	筋トーン・協調性・ADL検査の意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田	
	10 脳神経・意識障害・認知症検査 (講義・実技)	脳神経・意識障害・認知症検査の意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田	
	11 高次脳機能検査(講義・実技)	高次脳機能検査の意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田	
	12 まとめ	知識の整理を行う。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。						米田・堤	
授業形態	講義、実技実習								
教科書	1)改訂第18版 ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) 2)新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版社) 3)理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版株式会社) 4)実践リハ評価マニュアルシリーズ 臨床ROM 第2版 測定からエクササイズまで								
参考書	1)臨床での測定精度を高める！ ROM測定法(メジカルビュー社) 2)ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(医歯薬出版)								
評価方法	実技試験(40%) 筆記試験(40%) 課題(20%)								
授業時間外の学習	1-1.5時間程度の事前事後学習を要す。 関節可動域検査・徒手筋力検査では、必ず事前に該当箇所のWeb動画を視聴しておくこと。								
履修上の留意点	実技実習を行う際には診察衣で実施する。患者様に対する身だしなみ、態度、言葉遣いで臨むこと。 爪の手入れも怠らない。アクセサリー厳禁。 理学療法専門科目を含め、学習した臨床医学的知識が総合的に統合されること。								
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	理学療法検査測定演習			担当者	米田 愛、堤 恵志郎、川瀬 翔太				
学 年	2	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	理学療法評価学 I で学習した内容を踏まえ、基本的な検査測定の方法を再確認し、繰り返し実技演習を行うことでその定着を図る。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
	1 評価法の確認・復習	理学療法評価学 I で学習した評価法を確認し、対象者への配慮を含め安全かつ適切に繰り返し実施する。					川瀬翔太		
	2 テスト形式での実技演習	ROM-t・形態計測についてテスト形式にて実施し、グループディスカッションおよび教員からのフィードバックを元に実技演習を繰り返し行う。					米田 愛 堤 恵志郎 川瀬 翔太		
	3 テスト形式での実技演習	MMT・協調性検査についてテスト形式にて実施し、グループディスカッションおよび教員からのフィードバックを元に実技演習を繰り返し行う。							
	4 テスト形式での実技演習	感覚検査・腱反射・病的反射・筋緊張検査についてテスト形式にて実施し、グループディスカッションおよび教員からのフィードバックを元に実技演習を繰り返し行う。							
授業形態	実技演習								
教科書	1)改訂第18版 ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) 2)新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版社) 3)理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版株式会社) 4)実践リハ評価マニュアルシリーズ 臨床ROM 第2版 測定からエクササイズまで								
参考書	1)臨床での測定精度を高める! ROM測定法(メジカルビュー社) 2)ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(医歯薬出版)								
評価方法	課題提出 実技試験								
授業時間外の学習	1-1.5時間程度の事前事後学習を要す。								
履修上の留意点	実技演習を行う際には診察衣で実施すること。 患者様に対する身だしなみ(爪の手入れも怠らない。アクセサリ一厳禁)、態度、言葉遣いで臨み、オリエンテーションやコミュニケーションの仕方にも注意をすること。 理学療法専門科目を含め、学習した臨床医学的知識が総合的に統合されること。								
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	物理療法学				担当者	川瀬 翔太			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	物理療法によって得られる生理学的効果について説明できる 物理療法の実施について必要な準備・治療前後の指導・禁忌も含めて説明できる								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 物理療法概論・必要な基礎知識	理学療法の中の物理療法の位置づけを説明できる 物理療法に必要な基礎的な物理学の知識を復習する						川瀬 翔太	
	2 温熱療法概論・表在性温熱療法	温熱療法の概略を説明できる 表在性温熱療法の実施・禁忌について説明できる						川瀬 翔太	
	3 深達性温熱療法	深達性温熱療法の実施・禁忌について説明できる						川瀬 翔太	
	4 寒冷療法	寒冷療法の実施・禁忌について説明できる						川瀬 翔太	
	5 水治療法	水の物理的特性について説明できる 水治療法の実施・禁忌について説明できる						川瀬 翔太	
	6 電気療法	電気の物理的特性について説明できる 電気療法の実施・禁忌について説明できる						川瀬 翔太	
	7 牽引療法, 光線療法	牽引療法の実施・禁忌について説明できる 光線療法の実施・禁忌について説明できる						川瀬 翔太	
授業形態	配布資料および教科書を元にした講義形式								
教科書	最新理学療法学講座「物理療法学」(医歯薬出版)								
参考書	標準理学療法学 物理療法学(医学書院) 物理療法学 改訂第3版(金原出版)								
評価方法	筆記試験(100%)								
授業時間 外の学習	生理学, 物理学の復習をして臨むこと								
履修上の 留意点	この講義で学んだことを物理療法学実習に繋げる意識を常に持つこと								
担当者の 実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	物理療法学 実習				担当者	堤 恵志郎			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	物理療法の機器を実際に使用し、生体反応を生理学的な観点から理解する。 使用する機器の取り扱い方法、適応や禁忌について確認する。 患者さんへの実施上の説明や使用する姿勢など、相手への配慮について学ぶ。 自ら実習計画をたて実習を行い考察することを通し、研究過程を体験する。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 オリエンテーション	実習概要の説明。使用機器の取り扱い説明。実習計画書の作成。						堤 恵志郎	
	2 実習①(ホットパック)	4グループに分かれ、左記のテーマの実習を順番に行う。						堤 恵志郎	
	3 実習②(アイスマッサージ)								
	4 実習③(極超短波)								
	5 実習④(電気刺激TES)								
	6 実習⑤(電気刺激FES)	4グループに分かれ、左記のテーマの実習を順番に行う。						堤 恵志郎	
	7 実習⑥(超音波)								
	8 実習⑦(牽引)								
	9 実習⑧(交代浴)								
	10 発表のオリエンテーション 水中トレッドミルの概要説明	発表のオリエンテーション 水中トレッドミルの概要説明 (空き時間はグループ毎に発表の準備を行う)						堤 恵志郎	
	11 実習⑨(水中トレッドミル) 発表準備	グループ毎に病院の水治療室で行う。 (空き時間はグループ毎に発表の準備を行う)						堤 恵志郎	
12 発表	グループ毎に割り当てられたテーマについて発表する						堤 恵志郎		
授業形態	グループ学習、グループ実習、グループ発表								
教科書	最新理学療法学講座「物理療法学」(医歯薬出版)								
参考書	標準理学療法学 物理療法学(医学書院) 物理療法学 改訂第3版(金原出版)								
評価方法	実習計画及び実習態度(45%)、レポート(40%)、発表(15%)								
授業時間外の学習	1～2時間の事前事後学習を要す								
履修上の留意点	物理療法学の講義を復習すること。 一部、病院で実習を行うため、周囲への配慮を欠かさないこと。								
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	日常生活活動学Ⅱ				担当者	中村 敦子			
学 年	2	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	日常生活活動の評価ができる 代表疾患の日常生活活動(動作)の特徴を知り介助方法, 指導方法を学ぶ								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
	1 1年次の復習 基本動作(ポジショニング、杖動作)	ADLの概念と範囲, 位置付け, 評価の進め方, 実用性を説明できる。(復習) 杖の処方と動作を重症度別に指導できる。 ADLの基本動作の一つである臥位, 座位について意義, 解剖運動学的に望ましい姿勢を説明し, ポジショニング、指導が行える					中村 敦子		
	2 介助の基本	基本動作について多様な見方から評価を行う。 介助の基本を説明できる。					中村 敦子		
	3 標準的ADL動作の評価と指導	身の回り動について構成要素に分け, 要因別に分析する。					中村 敦子		
	4 ADL評価の実際	症例を通して, 評価を学ぶ。(BI, FIM)					中村 敦子		
	5 疾患別ADL① 片麻痺	片麻痺患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。					中村 敦子		
	6 疾患別ADL② 脊髄損傷	脊髄損傷患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。					中村 敦子		
	7 疾患別ADL③ 関節リウマチ	関節リウマチ患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。					中村 敦子		
	8 疾患別ADL④ 人工股関節	人工関節置換術後の患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。					中村 敦子		
	9 疾患別ADL⑤ 呼吸器・循環器疾患	呼吸器・循環器疾患患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。 老年期障害の特徴と評価, 予防, 認知症に対する接し方を学ぶ					中村 敦子		
	10 疾患別ADL⑥ 難病	難病患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。					中村 敦子		
授業形態	講義, 実技実習, グループ発表								
教科書	鶴見隆正 編集:標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版, 医学書院 千野直一他編集:脳卒中の機能評価—SIASとFIM[基礎編]								
参考書	千住秀明 監修:日常生活活動(ADL)第2版 神陵文庫 細田多穂 監修:シンプル理学療法シリーズ 日常生活活動学テキスト, 南江堂 伊藤利之ほか編:新版 日常生活活動(ADL)—評価と支援の実際—, 医歯薬出版株式会社 土屋弘吉ほか編:日常生活活動(動作), 医歯薬出版株式会社								
評価方法	筆記試験90% 発表10%								
授業時間外の学習	疾患別①～⑥におけるADL指導の実際については, グループで話し合い, 発表も行ってもらいます。当日、実技指導を含めた内容での発表ができるよう、事前準備(資料を集め、まとめる)を十分行ってから授業に臨んでください。								
履修上の留意点	疾患や患者像をイメージして状況に合わせたADL指導ができるよう目指してください。実技実習がある場合は、動きやすい服装で望んでください。								
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり								

## 授 業 要 項

令和6年度

科目名	運動学				担当者	水野 準也 濱川 麻美			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	運動障害を治療対象とする作業療法士にとって運動学はその理論的基礎をなす重要な科目である。正常運動とその仕組みに関して基礎知識を身につける。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 オリエンテーション	「運動学とは」および捉え方、機能解剖の整理の仕方、学習の進め方などを説明する。						濱川	
	2 肩関節について	肩関節を構成する骨、関節について列挙できる。 肩関節の構造と運動機能を説明できる。 肩関節における解剖学的特徴、関節構造、運動について説明することができる。						濱川	
	3 肘関節について	肘関節を構成する骨、関節について列挙できる。 関節分類から運動軸について説明できる。 主動作筋と補助筋、関節の制限因子について述べることができる。						濱川	
	4 手関節について	手関節を構成する骨、関節について列挙できる。 手関節・手指の構造と運動機能を説明できる。 手関節における解剖学的特徴、関節構造、運動について説明することができる。						濱川	
	5 股関節について	股関節を構成する骨、関節について列挙できる。 解剖学的特徴から股関節の機能を説明できる。 主動作筋と補助筋、関節の制限因子について述べることができる。						水野	
	6 膝関節について	膝関節を構成する骨、関節について列挙できる。 膝関節の構造と運動機能を説明できる。 膝関節における解剖学的特徴、関節構造、運動について説明することができる。						水野	
	7 足関節について	足関節を構成する骨、関節について列挙できる。 解剖学特徴から関節の分類、運動軸について説明できる。 運動時における腓骨の動きについて説明できる。 主動作筋と補助筋、関節の制限因子について述べることができる。						水野	
	8 脊柱について	脊柱を構成する骨、関節について列挙できる。 脊柱の構造と運動機能を説明できる。 脊柱の関節における解剖学的特徴、関節構造、運動について説明することができる。						濱川	
	9 歩行について	歩行周期について説明できる。 歩行における関節・筋の活動、力学などを説明することができる。 床反力について説明することができる。						水野	
授業形態	講義、グループ学習								
教科書	Donald A Neumann: 筋骨格系のキネシオロジー 第3版, 医歯薬出版株式会社 中村隆一: 基礎運動学 第6版, 医歯薬出版株式会社								
参考書	カパンディー関節の生理学、グレイ解剖学、関節・運動器の機能解剖 15レクチャーシリーズ運動学、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学								
評価方法	期末試験(筆記試験); 92点(水野49点、濱川43点) 事前課題(提出状況); 8点								
授業時間外の学習	授業前には基礎となる解剖学、基礎運動学の復習をしておくこと。また、講義前に配布されるプリントを用いて事前学習および調査を行い、授業に臨むこと。授業内容を元に1時間程度の復習を行うこと。								
履修上の留意点	学習理解には基礎的な知識(筋の起始停止、作用など)が必須であり、ボリュームも多く、授業速度も速いため、必ず予習、復習をすること。								
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	運動器障害作業療法治療学				担当者	棚瀬 智美 永田 明義 稲垣 慶之			
学年	2年	学期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	作業療法の対象となる主な整形外科疾患に対するの評価と治療のポイントを理解する。 手外科領域における作業療法に必要な基礎知識を学ぶ。 主要な疾患の特徴を理解し、治療につなげるための基礎を学ぶ。									
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者		
	1	主な対象疾患とその病態						各疾患の原因・治癒過程について学ぶ。		永田
	2	治療の基本的原則						喪失した機能の回復について学ぶ。 二次的合併症の予防について学ぶ。		永田
	3	手の機能解剖 手外科領域における評価						ハンドセラピーに必要な機能解剖を理解する。 治療につなげるために必要な手外科特有の評価法について説明できる。		稲垣
	4	手外科領域における治療 スプリント療法						解剖学的知識を理解した上で、主要な疾患の治療法について説明できる 治療学の一方法としてのスプリント療法の基礎知識を理解する。		稲垣
	5	骨折について						骨折の分類、治癒過程、症状、診断、初期治療、合併症について理解および説明することができる。 上肢骨の主な骨折部位とその特徴について理解および説明することができる。 OT評価・治療について項目をあげ説明することができる。		棚瀬
	6	大腿骨頸部骨折、胸椎・腰椎圧迫骨折について						大腿骨頸部骨折、胸椎・腰椎圧迫骨折について、病態・症状・検査所見・治療について理解し説明することができる。 作業療法評価・治療について項目をあげ説明することができる。		
	7	関節リウマチについて						関節リウマチについて、病態・症状・診断・検査所見・治療について理解し説明することができる。 作業療法評価・治療について項目をあげ説明することができる。		
	8	腱板損傷						腱板損傷について、症状・診断・検査所見・治療について理解し説明することができる。 作業療法評価・治療について項目をあげ説明することができる。		
9	熱傷について						熱傷について症状・障害を説明することができる。 熱傷について適切な作業療法評価内容を説明することができる。 作業療法の目的、指導、援助内容、方法、手段について説明することができる。			
授業形態	座学(講義)、パワーポイント 対面でのスライドによる講義(場合によっては、Web上での遠隔講義)									
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 第3版									
参考書	整形外科学テキスト 改訂第5版 上羽康夫:手 その機能と解剖(稲垣) 斎藤和夫編:動画で学ぼうPT・OTのためのハンドセラピー(稲垣)									
評価方法	筆記試験末試験(筆記試験);永田13点、稲垣27点、棚瀬60点									
授業時間外の学習	講義後は1時間程度の復習を行うこと。									
履修上の留意点	上記の内容について解剖学・生理学・運動学などの基礎知識を復習しておくこと。									
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事									

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	神経障害作業療法治療学Ⅰ				担当者	棚瀬 智美 平松 敦子 山田 剛史			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	疾患の病態について学び、障害像と作業療法における介入について理解する。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 身体機能作業療法について	・作業療法のプロセスについて説明できる。 ・身体機能作業療法のアプローチと治療理論について理解できる。						平松	
	2 脳血管障害について	・脳血管障害の病態について説明できる。 ・脳血管障害の障害像と機能的予後について説明できる。						平松	
	3 脳血管障害の評価について	・対象者の生活機能障害を、ICFに基づいて説明できる。						平松	
	4 脳血管障害の作業療法について	・急性期・回復期・維持期における作業療法の目的とプログラムを説明できる。						平松	
	5 頭部外傷の作業療法について	・頭部障害の病態・症状・障害像について説明できる。 ・頭部外傷の評価および作業療法について説明できる。						棚瀬	
	6 脳血管障害に対する作業療法の実際	脳血管障害の症例を通して、評価から治療までの作業療法の一連の流れを理解し、説明できる。						山田	
	7 パーキンソン病の作業療法	パーキンソン病の病態と症状について説明できる パーキンソン病の障害像について説明できる 作業療法の目的、評価項目、介入方法を説明できる						棚瀬	
授業形態	講義、演習								
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 第3版 病気がみえる vol7.脳・神経 メディックメディア								
参考書	メディカルスタッフのための神経内科学 脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで 医歯薬出版 身体機能作業療法学 協同医書出版								
評価方法	棚瀬(26点)、平松(60点)、山田(14点): 期末試験(筆記試験)								
授業時間外の学習	解剖学、生理学、運動学で既に学んだ知識を基に展開するので、必ず予習(復習)をして講義に臨むこと。								
履修上の留意点	評価方法等について授業内でオリエンテーションを行うため、留意すること。								
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	作業療法評価学Ⅱ				担当者	藤部 百代 梅田 雄嗣 平松 敦子			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	作業療法の全領域における基本的な評価の知識・技術について演習を通して学ぶ。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]				担当者
	1 画像所見について				CTやMRIを用いた脳画像の診かたを説明できる。 X線写真の診かたを説明できる。				藤部 平松
	2 臨床検査値について				臨床検査には何があるか説明できる。 臨床検査値を作業療法にどのように役立てるか説明できる。				藤部
	3 バイタルサインについて				バイタルサインの定義を説明できる。 バイタルサインの意味を説明できる。 バイタルサインの測定方法を説明できる。 バイタルサインの測定を実施できる。				平松
	4 脳神経検査について				脳神経検査の意義を説明できる。 脳神経とその機能的分類を説明できる。 臨床でよく行われる検査法を実施できる。				平松
	5 形態計測について				形態計測の目的と意義を説明できる。 形態計測の種類と計測方法を説明できる。 形態計測を実施できる。				平松
	6 意識障害の評価法について				意識障害の種類と状態を説明できる。 意識障害の評価を説明できる。				平松
	7 面接法について				面接の目的や一連の流れ、情報収集項目の理解を深める。 1年生に対する面接体験にて、導入から実施までの流れを体験する。 面接を振り返り、自身の面接者としての態度や情報収集方法について知り、よりよい面接のために必要なことを考えることができる。				梅田
授業形態	講義、演習、グループワーク、発表								
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院								
参考書	バイタルサイン 医学書院 病気が見えるVol.7 脳神経 メディックメディア								
評価方法	期末試験(筆記試験) (平松:50点 藤部:30点)、レポート(梅田:20点)								
授業時間外の学習	面接においては、1年生に対する面接およびレポート課題を行う。								
履修上の留意点	面接においては、1年次の作業療法評価学Ⅰで学んだ内容ををもとに授業が展開されることを念頭において臨むこと。								
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事								

# 授業要項

令和6年度

科目名	医療管理学				担当者	土岐 久美子 梅田 雄嗣	志波 幸子 平松 敦子	小野田 慎平 藤部 百代	
学年	2年	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	作業療法マネジメントに必要なリスクマネジメントを学ぶ。 栄養学について学び、リハビリテーションと栄養学の関連性について理解し、栄養管理の重要性を知る。 救命救急医学の基礎である心肺蘇生法及びその他の応急手当の手技を習得する。							
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者	
	医療安全管理 ・医療安全と医療事故の実際、 1 ヒューマンエラー ・リスクマネジメント(制度・マニュアル・報告・対応)	医療安全管理の実際について学び、リハビリテーション部門とのつながりやリハビリテーションにおける医療安全管理の必要性が理解できる。					土岐	
	2 院内感染・感染対策の実際	院内感染・感染対策について理解し、説明・実践できる					志波	
	栄養管理 ・栄養の基礎(栄養学) 栄養補給、エネルギー、栄養素 ・栄養療法(リハビリテーションとの関連) 3 栄養管理、メタボリックシンドローム ・栄養管理の実際 NSTの実際	栄養管理の実際について学び、リハビリテーション部門とのつながりやリハビリテーションにおける栄養管理の必要性が理解できる。					小野田	
	4 応急手当の必要性	応急手当の必要性について理解し、説明することができる					梅田 平松	
	5 心肺蘇生法実技	心肺蘇生法実技(反応、呼吸の確認、胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの使用)を実施することができる						
	6 その他の応急手当	異物除去法(催咳・腹部突き上げ法・背部叩打法)止血法(直接圧迫止血法)について理解し、実施することができる						
	作業療法場面におけるリスクマネジメント 7 ・作業療法におけるリスク ・急変時の対応	リハビリテーションで起こりうる主な事故と対応の概要について理解できる。 急変時の流れについて理解できる。					藤部	
	8 手指衛生の実際	手指衛生の方法について理解し、実践できる。					梅田	
授業形態	講義 救急法実技実習							
教科書	配布資料あり							
参考書	身につけよう正しい応急手当:名古屋市消防局救急対策室編							
評価方法	講師による レポートor期末試験、救急法実技 土岐(13点)、志波・梅田(13点)、小野田(27点)、藤部(20点)、梅田・平松(27点)							
授業時間外の学習	授業前後の予習・復習を1時間程度行うこと							
履修上の留意点	救急法では実技が行える服装で臨むこと							

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	身体障害作業療法評価学				担当者	藤部 百代 平松 敦子			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	身体障害を対象とする作業療法を実施するにあたって対象者の状態が把握できるようになるために、基本的な評価の目的、方法を学び、それらを実施できる。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 評価とは	評価を実施する目的を説明することができる						平松 敦子	
	2 関節可動域検査について (体幹、上肢、手指、下肢)	関節可動域の説明ができる 関節可動域検査の目的、方法の説明ができる 関節可動域検査を実施し、検査技術が実施できる						平松 敦子 藤部 百代	
	3 筋緊張検査について	筋緊張検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる						平松 敦子 藤部 百代	
	4 徒手筋力検査について (体幹、上肢、手指、下肢)	徒手筋力テストについて説明ができる 徒手筋力テストの目的、方法の説明ができる 徒手筋力テストを実施し、検査技術が実施できる						平松 敦子 藤部 百代	
	5 感覚検査について	表在感覚・深部感覚検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる						平松 敦子 藤部 百代	
	6 協調性運動検査について	協調性検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる						平松 敦子	
	7 反射検査について	腱反射・病的反射の目的、方法、種類の説明と実施ができる						平松 敦子	
	8 姿勢反射、平行反応、バランス検査 について	姿勢反射、平衡反応、バランス検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる						平松 敦子	
9 上肢機能検査 について (STEF、MFT、握力、ピンチ力)	上肢機能について説明ができる 各上肢機能検査が実施できる						平松 敦子		
授業形態	講義、実技実習								
教科書	1. 田崎義昭; ベッドサイドの神経の診かた改訂18版, 南山堂 2. 能登真一; 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版, 医学書院 3. 津山直一; 新・徒手筋力検査法 原著第10版, エルゼビアジャパン 4. 岡庭豊; 病気がみえる vol7 第2版, 脳・神経, メディックメディア								
参考書	基礎運動学(医歯薬出版) 関節可動域測定(協同医書) ROM測定 第2版(三輪書店)								
評価方法	筆記試験 70点[期末試験:60点, 小テスト:10点] 実技試験 30点[中間実技試験:15点, 期末実技試験:15点]								
授業時間外の 学習	解剖学と生理学の復習、評価実技の基礎知識について自宅学習								
履修上の 留意点	実技実施時は動きやすい服装を着用すること。 講義以外時間で実技テストを行う。								
担当者の 実務経験	病院で作業療法に従事								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	精神障害作業療法治療学				担当者	水野 準也 梅田 雄嗣			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	精神科医療および作業療法の歴史・変遷、精神障害分野の特性を学ぶ。 精神科作業療法の流れ、治療や関連職種を学ぶ。 主要な疾患に対する回復状態に応じた作業療法の治療・援助について理解する。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 精神科医療および作業療法の歴史・変遷、分野の特性	精神科医療・作業療法の歴史を説明できる。 精神障害分野におけるリハビリテーション・作業療法の概要を説明できる。 身体障害との違いを中心に、精神障害分野の特性を説明できる。						梅田	
	2 精神科作業療法の流れ、治療、関連職種	精神障害分野における作業療法の流れ、治療、関連職種について説明できる。 ・精神科作業療法の流れ ・治療の場(入院、デイケア、その他) ・治療構造(場、時間、形態) ・治療手段(作業活動、OTR) ・関連職種						梅田	
	3 回復状態に応じた作業療法	対象者の回復状態に応じた作業療法の役割が説明できる。 ・急性期 ・亜急性期 ・回復期前期・後期 ・維持期、緩和期						水野	
	4 統合失調症	統合失調症の疫学、症状、病型、回復過程について理解し、説明することができる。 統合失調症の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。						水野	
	5 気分障害	気分障害(うつ病、双極性障害)の疫学、症状について理解し、説明することができる。 気分障害の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。						水野	
	6 パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 パーソナリティ障害に対する作業療法の目的や治療について説明することができる。						水野	
	7 物質関連障害(アルコール使用障害を中心に)	アルコール使用障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 アルコール使用障害の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。						水野	
	8 認知症	認知症の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 認知症に対する作業療法の目的や治療について説明することができる。						水野	
授業形態	講義 グループ討議								
教科書	精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 新版(三輪書店) 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学(第3版)(メジカルビュー社)								
参考書	適宜紹介する。								
評価方法	期末試験(筆記試験);水野51点、梅田49点								
授業時間外の学習	授業後は授業内容を元に主体的に復習を行うこと。								
履修上の留意点	臨床実習 I で経験した内容をもとに授業が展開していくことを念頭に置いて臨むこと。								
担当者の実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	基礎作業学 実習Ⅱ				担当者	水野 準也 梅田 雄嗣	濱川 麻美 藤部 百代		
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	治療手段として用いる各作業活動の基本的知識・技法を習得し、実践における注意点について理解を深める。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]			担当者	
	1 革細工				<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な道具、材料を列挙できる。</li> <li>作業工程を理解し、実際に作品を完成できる。</li> <li>作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。</li> </ul>			濱川	
	2 共同作品				<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な道具、材料を列挙できる。</li> <li>作業工程を理解し、実際に作品を完成できる。</li> <li>作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。</li> </ul>			梅田	
	3 編み物(かぎ針編み)				<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な道具、材料を列挙できる。</li> <li>作業工程を理解し、実際に作品を完成できる。</li> <li>作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。</li> </ul>			藤部	
	4 七宝焼き				<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な道具、材料を列挙できる。</li> <li>作業工程を理解し、実際に作品を完成できる。</li> <li>作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。</li> </ul>			梅田	
	5 作業分析、まとめ				基礎作業学実習Ⅱで学習する作業活動を通して、作業の治療適応について学ぶ。			水野	
授業形態	講義、実技実習、グループワーク								
教科書	なし								
参考書	革の技法 楽しむための基本集 クラフト学園研究室 著 日本ヴォーグ社 適宜紹介								
評価方法	学習後のレポートと作品で評価をする 濱川(47点)、水野(13点)、梅田(27点)、藤部(13点)								
授業時間外の学習	作品制作には道具や材料および手順を確認して臨むこと。授業後には制作のポイントや注意点をまとめておくこと。								
履修上の留意点	革細工において、刃物を扱う上での注意。染料を使うので、対応できる服装で臨むこと。全ての作業活動において、提出するレポートが自身の作品の内容になるよう理解すること。								
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	日常生活活動学				担当者	濱川 麻美			
学 年	2年	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	身体障害領域においてADLの維持・改善を目的としたOTを実施するために、必要な基礎的な知識を身につける。また、その知識をもとにOTに必要なADLの基本的な考え方を身につける。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 日常生活活動の概念・意義・範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ADLの歴史を学びADLの概念や範囲について理解できる。</li> <li>・ADL・IADL・QOLの定義について説明できる。</li> <li>・ADL・IADLの項目をあげることができ、内容について説明できる。</li> </ul>						濱川	
	2 日常生活活動と障害との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活活動を遂行するための身体機能、影響因子を説明できる。</li> <li>・日常生活活動の障害について説明できる。</li> </ul>						濱川	
	3 日常生活活動評価について ①概要 ②方法(動作分析) ③方法(バッテリー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の目的を理解できる。</li> <li>・評価方法について説明できる。</li> <li>・健常者の基本動作(起居動作)の動作分析評価の視点を説明できる。</li> <li>・健常者のADL項目について動作分析評価の視点を説明できる。</li> <li>・FIM/Barthel indexの特徴について説明できる。</li> </ul>						濱川	
	4 脳血管障害のADL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害特性に応じた評価におけるポイント、ADL訓練における留意点について理解および説明できる。</li> <li>・ADL・IADLの各項目について、動作の工程を理解し説明できる。</li> </ul>						濱川	
	5 関節リウマチのADL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害特性に応じた評価におけるポイント、ADL訓練における留意点について理解および説明できる。</li> <li>・ADL・IADLの各項目について、動作の工程を理解し説明できる。</li> </ul>						濱川	
授業形態	講義、演習、グループワーク								
教科書	新版日常生活活動(ADL)第2版 医歯薬出版株式会社 脳卒中の機能評価 SIASとFIM[基礎編] 金原出版株式会社								
参考書	改訂第2版 作業療法学 ゴールドマスター・テキスト身体障害作業療法学/メジカルビュー社 臨床作業療法シリーズ 身体障害領域の作業療法/中央法規 作業療法学全書[改訂第3版]第4巻 作業治療学1身体障害/協同医書出版社 改訂第2版 リハ実践テクニック 関節リウマチ/メジカルビュー社								
評価方法	期末試験(筆記試験);濱川 80点 レポート課題;濱川 20点								
授業時間外の学習	レポートの作成、生活環境論と運動器障害作業療法治療学の復習								
履修上の留意点	各自必要となる参考書(教科書)や資料を持参して授業に臨むこと。								
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事								

# 授 業 要 項

令和6年度

科目名	精神医学Ⅱ				担当者	吉岡 眞吾 酒井 崇 古村 健			
学 年	2	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	精神医学Ⅰで得た知識に加え、臨床実践的な知識を得るとともに、それらの知識を実際の臨床場面を想定して応用することができる。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]			担当者	
	1 司法精神医学、医療観察法 ①刑事責任能力 ②心神喪失者等医療観察法				犯罪を成立させる要件を理解し、その上で医療観察法制度、それに基づく実際の法律の内容としたOTの役割を理解する。			吉岡	
	2 児童・思春期精神医学の基本 子ども虐待				子どものこころの問題の基本と成人との違いを理解する。 子ども虐待の現状とその対応について学ぶ。			吉岡	
	3 精神療法				精神科のかかわりの特殊性を理解でき、具体的な場面(例えば自分が妄想対象になった場合)で何を考え、どう対処すべきかについて理解・実行できる。			酒井	
	4 精神科薬物療法				向精神薬の分類、薬理、効果、副作用について理解でき、具体的な処方内容をみて、医師の考えている治療効果や起こりうる副作用について考えることができる。			酒井	
	5 認知行動療法				基本となる認知行動モデルを理解し、多様な精神障害や問題行動に適用できる。支援方法として、認知・行動的アプローチを理解し、説明できる。			古村	
授業形態	形態は講義形式、体験学習、グループ討議。学習資源としては、配付資料、パワーポイントを使用する。								
教科書	特になし。								
参考書	標準理学療法学・作業療法学—専門基礎分野 精神医学 第4版増補版 医学書院								
評価方法	吉岡:40点 期末試験 酒井:27点 期末試験、もしくはレポート 古村:33点 論述試験								
授業時間外の学習	特になし 酒井:精神医学Ⅰにて学んだ内容について、受講前に復習しておくことが望ましい。								
履修上の留意点	特になし								
担当者の実務経験	精神科において医師、心理職として従事。								